

数量関係②

第1学年

ひき算(求差)の意味

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか?～

ちがいを求めるときの基準となる数が理解できない。

問題：きいろの かえるが 3びき。みどりいろの かえるが 5ひき。
みどりいろの かえるは きいろの かえるより なんびき おおいでしょう。



「多い」だから、増えるのかな。 $3+5=8$?

問題の意味を正しく理解していない。ちがいに着目することがわからない。

式は $3-5=2$?
でも、なんだかおかしいな。



基準にする数がわからない。

単元の概要

目標

「どちらがどれだけ多いか」という違いを求める場面を理解する。

内容

※太字は次ページに詳細を掲載

- 求残、求部分、求差をひき算の式に表す。
- 求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表す。
- ひき算が用いられる場面や、ひき算の記号や式のみ方、かき方を理解する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	割合を使って	全体を1として、割合を用いて考えることができない。
第5学年	割合	問題場面の数量 (比べる量、もとにする量、割合) の関係を理解すること、小数を%で表すことが難しい。
第4学年	小数倍	「○は□の何倍ですか」という問いに対して、 $○ < □$ の時に、 $○ \div □$ と立式することに抵抗がある。何倍かするのになんか答えがかけられる数よりも小さくなる場合があることが理解できない。
第3学年	倍とわり算	何倍かを求めるときに、わり算を使うことが理解できない。
第2学年	式の読み取り (かけ算)	被乗数と乗数の関係が正しく理解できない。
第1学年	ひき算 (求差) の意味	ちがいを求めるときの基準となる数が理解できない。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

具体的操作を通して、どちらがどれだけ多いかを説明する活動

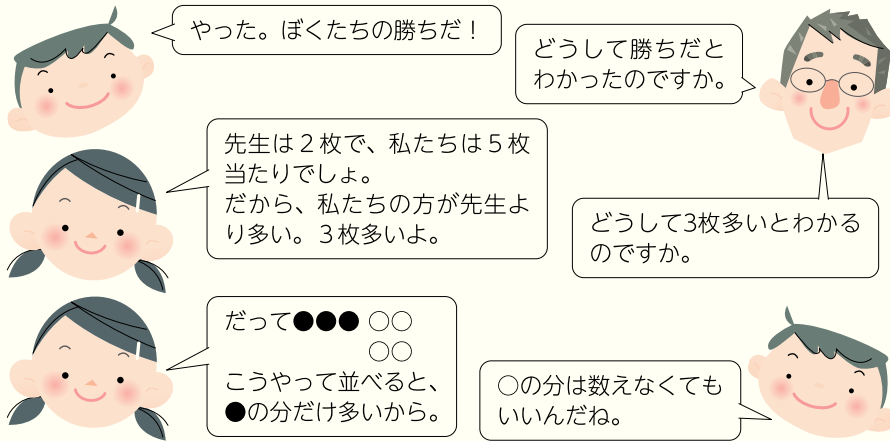
活動のねらい▶ ・当たりのカードが何枚多いか競うことで、求差の場面を理解する。

ここが
ポイント

- ・子どもチームと教師で交互にくじを引くことで、当たりの枚数に着目させる。
- ・「どうして○枚多いとわかるのですか。」と問うことで、違いに目を向ければよいことに気付かせる。

期待される児童の姿

先生と子どもチームで、くじを引きます。どちらが勝つでしょう。



カードを並べて当たりの枚数を比べるという具体的操作を通して、どちらが何枚多いかという求差の場面であることが理解できるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

図や数図ブロックを用いて、問題場面について説明し合う活動

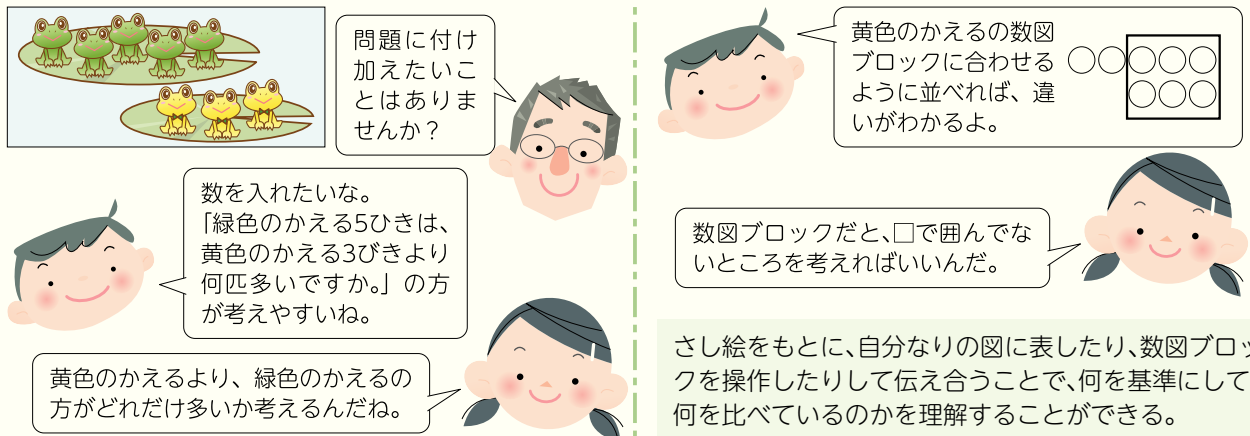
活動のねらい▶ ・「～より」の言葉に着目して、何を基準にして何を比べているのかという見方を身に付ける。

ここが
ポイント

- ・「問題に付け加えたいことはありませんか。」と問い、(5ひき) (3びき) などの数を付け加えるとよいことに気付かせる。
- ・問題に合わせて数図ブロックを操作し、黄色のかえるを基準にして緑色のかえるの数を比べているということを意識させる。

期待される児童の姿

みどりいろのかえるはきいろのかえるよりなんびきおおいでしょう。



$$ax + ay = a(x + y)$$